

哲学科



Department of Philosophy

目の前の当たり前前に立ち向かい、
驚きと発見に変えていく。

「なぜ？」と問いかける。
それは、すべての学問の基本であり、
生きることの基本。
どんな資格よりも社会に通じる、
思考し対話する技術を、
ともに磨いていきましょう。

学びのステップ

1年次
哲学の基本知識と
哲学的思索の方法を
身に付ける。

2年次
哲学的な諸問題を自ら考え
哲学的な思考・分析について
理解を深める。

3年次
少人数ゼミでの
グループ発表や討論を通じて
思考力、文章力、発言力を養う。

4年次
関心を深めた事柄について
学問的アプローチをする。
卒業論文を執筆する。

哲学科でできること

大学での学びのベースをつくる「基礎ゼミ」合宿

入学後すぐ、大学で学ぶための基礎的なスキルを習得する「基礎ゼミ」。全員参加の合宿では、古今東西の哲学に関するさまざまなテーマについて話し合い、その成果を発表します。学生同士はもとより、教員との距離も縮まり、これから始まる4年間の大学生活のスタートをスムーズに切ることができます。

文章鍛錬とディスカッションで、思考力・表現力を伸ばす

少人数制のゼミでは、プレゼンテーションやディスカッションなど発言の機会を多く設け、思考力や表現力、コミュニケーション能力を高めます。また、文章を書くことでも、それらの力を向上させます。2年次で必修の「基礎演習」では、読んで考える、そして書くという哲学の基礎作業を身に付けます。毎回のレポート提出では添削指導も行い、こうした文章鍛錬を経て、卒業時には2万字以上の論文を書き上げます。

哲学科で身に付ける、社会を生き抜く力

- 1. 問題発見力・発想力**
「そもそもなぜ？」と問う哲学的な問題発見能力、独創的な発想力を高める
- 2. コミュニケーション能力**
理論的な理解力や表現力を身に付け、説得力のあるコミュニケーション能力を高める
- 3. 洞察力・思考力・生きる力**
ものの考え方を多様な角度から学び、これによって得た広い視野や深い洞察力、柔軟な思考力によって、強く生きる力を得る
- 4. 応用力**
哲学によって学んだ人類の知恵を、身近な現代社会の諸問題に応用する力を付ける

国際的な視野を養うヨーロッパ研修

異文化理解の問題を、実際に海外研修で学ぶ少人数講座「国際哲学特講」。学期末にヨーロッパ(フランス・ドイツ)へ行き、現地の学生と合同ゼミを行います。人間交流を通じて哲学を学び、国際的な視野を養います。(P.8参照)

注目の授業

古今東西の哲学・思想・宗教や美術・芸術学、文化史や心理学・社会学関係など、学問分野が充実。各学生の多様な関心に応じて学べます。

倫理学概論

何が善くて、何が悪いのか？ これは、私たちが生きていく上で避けることのできない問いです。この授業では、この善・悪の判断基準の根拠を開かれた姿勢で考えること、私たちが直面している生命や環境をめぐる倫理問題を深く考え、広く議論することを狙いとします。

星野 勉 教授



学生の声

ついで人生について考えさせられた(2年女子) / 自分の倫理観のなさに気付かされた(2年男子) / いろいろな見方があったことが分かった(2年男子) / 科学技術には正負の両面がある(2年男子)

哲学特講(哲学と文学)

文学と映画を通して哲学的なテーマを学習する授業です。古代ギリシャ神話と哲学の典故が多くちりばめられた T. マンの名作『ヘニスに死す』と同名映画を扱い、愛、美、芸術と死などについて考え、哲学的な視点から解釈する方法も学んでいきます。

D. ハイデンライヒ 教授



学生の声

先生がカリスマ的で面白い(2年女子) / 誰もが楽しめる名作を通じて学ぶ哲学(3年男子) / 爽快感は格別!(4年男子) / 芸術は、すべて理解しなくてもいいことも魅力です(3年女子)

現代思想1 / ドイツの思想

19世紀ドイツの思想家ニーチェを取り上げています。近年の研究を踏まえ、ニーチェについての既成観念を取り払いながら、彼が何を言おうとしたのか、また、彼の思想が現代の思想・文学・芸術にどのようなインパクトを与えたのかを浮き彫りにしていきます。

笠原 賢介 教授



学生の声

哲学への最初の一步を踏み出す助けになる(3年男子) / 独学では難しい学びができて嬉しい(3年女子) / とても分かりやすい解説(4年男子) / さまざまな視点から現代思想を学べる(3年男子)

ゼミでの学び

広い視野や深い洞察力を養うゼミ学習。さらに深く学びたい学生には、学部生も単位認定される大学院のゼミも設けています。



哲学演習(9)

デカルトから現代まで、形而上学や認識論上の超難問について、学生同士の火花の散るディスカッションと、教員の明快無比な説明とが、すがすがしい後味を残すゼミだということは、参加してみれば分かります。

中釜 浩一 教授

学生の声

ゼミ生同士で真剣な議論ができ、人と話しながら哲学的な思索を深めていけるのは大きな魅力。最も印象に残っているのは、ゼミ合宿の夜の仲間との対話です。物事に対してこんなにもさまざまな考え方があったことを身をもって知ることができ、同時にそれぞれの考えを語り合える仲間の存在に喜びを感じました。

哲学科 4年 須藤 未来さん
千葉県立船橋高等学校出身



哲学演習(11)

法哲学のゼミです。法制度の意義・あり方について、「人間とは」「望ましい社会とは」といった根源的な視点から考えます。優しい先生の厳しい指導の下で受講生が明るく鋭く議論しています。

内藤 淳 准教授

学生の声

当たり前だと思っている価値観を、論理や統計を使ってひっくり返していく試みにより、慎重に考える力を養えることがこのゼミの魅力。また、発表者やコメンテーターといった役割がしっかり定められており、その中で自由で多様な視点からの批判を通じて自分の思想や価値観を鍛えることができます。

哲学科 4年 本多 雄斗さん
東京都立小松川高等学校出身

卒業論文 テーマ例

幸福の哲学的考察 / 徳と倫理—主徳論を通じて / 原発問題に対する公共徳徳の必要性—科学の危機における責任と義務—笑いについて / 自己実現理論における価値の問題 / ハンナ・アーレントの「人間の条件」の意義と問題 / 「正義」という概念について / 個性とは何か—私らしく生きるということ— / 日常的考察における写真の虚構性 / 抵抗権はどこまで可能か / ベジタリアンの活動から動物倫理を考える / 日本人はなぜクリスマスを祝うのか / プラトン哲学における美と善の関係性について

哲学科では「グローバル体験公募推薦入試」「国際バカロレア利用自己推薦入試」も実施しています。詳しくは大学案内 / 入学センターHPをご覧ください。

哲学科オリジナルサイト <http://www.i.hosei.ac.jp/tetugaku/>

日本文学



Department of Japanese

言葉をめぐる4年間の旅。
その果てに、日本文化の本質を見る。

文学、言語、芸能、歴史——

日本語と日本文化、そのすべてに興味を広げ、深く深く掘り下げていく。

その過程で手にする研ぎ澄まされた「言葉の力」と教養溢れる奥深い「人間性」は、あなたの人生の大切な糧になるでしょう。

学びのステップ

1年次

学問領域の全体像を俯瞰し
学びの基礎を固め
専門的な学びに備える。

2年次

3コースに分かれ、ゼミに所属。
専門科目や出版関連科目
などの履修も可能に。

3年次

他学部・他学科の科目も含め
より広い視野から
学びを深める。

4年次

学びの集大成として
卒業論文・卒業制作に取り組む。

日本文学でできること

4年間の少人数教育で、本物の言葉の力を養う

1年次の春学期には、20人以下の少人数講座「大学での国語力」を開講します。ここでは、大学の学びに必要な、高度な「読む・聞く・書く・話す」力を養い、能動的な学びの姿勢を身に付けます。さらに秋学期には「ゼミナル入門」で専門的な学びに向けた準備を開始。2年次からはゼミナルがスタートし、専門分野の研究を深めていきます。

3コース制と横断的カリキュラムで、深く広く学ぶ

2年次からは「文学」「言語」「文芸」の3コースに分かれて専門性を高め、さらに学びたい専攻分野のゼミナルに所属します。ゼミはいずれも各学年10人以下の少人数制。4年次には卒業論文・卒業制作に取り組みます。また、所属コース以外の科目も履修できる横断的カリキュラムも日本文学学科の特色。日本文学に関連しつつも枠にとらわれない多彩な科目群から自由に履修することで、幅広い視野と見識を得ることができます。

授業で学べる、編集・出版の知識と実務

新聞や出版業界を志す人も多い日本文学。著作権やプライバシー問題を考える授業や、DTPソフトを使った編集実務の実習など、文芸・言論に対する考え方やスキルも学べます。また毎年、学科生が企画・編集を行った文芸誌を刊行するなど、本づくりのプロセスも体験できます。



プロの作家への原稿依頼やインタビューも経験します

<文学>コース

時代・ジャンル別の12のゼミで、作品を読む力を養います。授業では、演劇から歌謡、児童文学、中国古典文学まで幅広い科目を展開しています。

<言語>コース

日本語の歴史、現代語の諸相、言語学から見た日本語など4つのゼミで、言語の複雑さや面白さをさまざまな角度から学びます。

<文芸>コース

第一線で活躍する作家や評論家、編集者による5つのゼミを設置。文芸創作の理論と方法を身に付け、学生自ら作品を創り上げていきます。

注目の授業

多岐にわたる科目群により、古代から現代に至る文学・言語の基礎を学んだ上で、日本文化全体を見渡すことができます。

文章表現論

書きたいと思っはじまる作文には、文学作品まで結びつく言葉があります。この授業では、800字の文章を何度か提出してもらい、教員が評価をつけて講評します。現代文学や文学史を参照し、提出された作文を素材に文学の言葉が生まれる現場に迫ります。

田中 和生教授



学生の声

自分にしか書けない文章を探求する授業(2年男子) / 楽しくためになる(2年女子) / 実際に文章を書き、他学生の作品を読む。創作の入口となる講義です(3年女子) / 読み手の側に立って文章を書くということを学んだ(3年女子)

日本文芸研究特講(4)近世D

江戸の大衆に愛された戯作から、式亭三馬『浮世風呂』、柳亭種彦『修業田舎源氏』、曲亭馬琴『椿説弓張月』などの代表的な作品を取り上げ、その面白さを分析します。ストーリーだけでなく、凝りに凝った表現・文体の工夫といった作者の手際に感心させられます。

小林 ふみ子教授



学生の声

世界を新たな視点で捉え、深く知れる(3年女子) / 現代の表現方法と江戸時代の表現方法が繋がっていると分かります(1年女子) / 江戸時代の本に直接触れ、当時の人たちが楽しんでいた書物を、楽しく読めるようになります(2年女子)

ゼミナル(言語)

日本語を研究対象にして、時代を問わずさまざまな視点から自分の頭で考え、自分の言葉で表現し、自分なりの論を立てられるようになることを目標としています。そして、最終的には卒業論文の作成に役立つスキルを身に付けます。

間宮 厚司教授



学生の声

2~3年生の時は教室授業でゼミ生のいる発表を興味深く聞くことができました。また、4年生の時は先生の研究室で月一回行われる卒論報告会で助言をいただき、不安だった卒業論文を無事に提出できました。(4年女子)

ゼミでの学び

専門に特化した20以上のゼミをラインナップ。個々の研究を深めるとともに、実社会で必要とされる能力も実践的に身に付けていきます。



ゼミナル(文芸創作)

作品批評の方法を研究しながら自分が書きたい作品がどのようなものなのかを探求していきます。作品にはそれぞれ特徴があります。批評に耳を傾けながら、学生自身が自分の書きたい作品の形を見出します。

中沢 けい教授

学生の声

同じ風景を見ても人によって感じ方も考え方もまったく違います。性別、年齢、性格、考え方、発言、行動。あれこれ考え巡らせて文章を書く際の言葉選びが面白いところです。文章を書くための基本的なスキル、ストーリーを考え構成する力、何より文章を書くこと自体を楽しめるようになりました。

日本文学 3年 小滝 直也さん
山口県立下松高等学校出身



ゼミナル(言語)

刻々と変化する現代日本語(例えば若者言葉)の姿を調査し、文法や意味の観点から分析します。学生によるチームプレゼンと個人研究発表の二本立てなので、準備は大変ですが、大学生らしい充実感が味わえます。

尾谷 昌則教授

学生の声

言語学は私たちの身近にある言葉を扱う学問。普段使っている言葉で疑問に思ったことを研究テーマにできます。また、みんなの前で発表する機会が多いことも魅力の一つ。発表が苦手な人も、回を重ねるうちに言いたいことを分かりやすく伝える能力が身に付きます。

日本文学 3年 田中 萌絵さん
International School of Düsseldorf(ドイツ・デュッセルドルフ)出身

卒業論文 テーマ例

大國主神話—八十神と禊— / 『源氏物語』における不義密通 / 現代の中学・高校生にとっての『平家物語』認知度 / 『善界』と天狗能の変化 / 百物語系怪談集から考える「怪異」への意識 / 谷崎潤一郎『秘密』の土地描写と幻想性 / 一九五二〜一九六二 安部公房十年の変遷 / 谷川俊太郎—死生観に冠する考察— / 日韓児童文学比較論—『韓国人気童話シリーズ』の研究 / 絵本作家佐野洋子論 / 日本酒のネーミング / 日米化粧品広告コピーの比較 / 女児向けテレビアニメーション作品における「女ことば」使用の変化について / オノマトペ「まったり」の使用例について (ほか、創作)

日本文学では「自己推薦入試」(11月)も実施しています。詳しくは大学案内 / 入学センターHPをご覧ください。

日本文学オリジナルサイト <http://nichibun.ws.hosei.ac.jp/wp/>

英文学科



Department of English

「使える英語」だけじゃない。
幅広い学びで
世界を俯瞰する力を得る。

グローバル社会で生きるために
なくてはならない「英語」。
道具としての実践英語と英語圏の文化に根ざした英語、
その両輪を深く学びます。
知的社会人としての基礎を身に付け、
国際社会に羽ばたきましょう。

学びのステップ

- 1年次** 大学の学びに必要な知識を習得。専門講義の履修も可能。
- ▼
- 2年次** さまざまな専門分野に触れ学びを深め、興味に応じてゼミを選択。
- ▼
- 3年次** 所属ゼミで学習・研究を行う。また、卒業論文を除くすべての科目が履修可能に。
- ▼
- 4年次** 卒業論文の執筆に励む。専門の研究に興味があれば大学院への進学も視野に。

英文学科でできること

ネイティブ指導で伸ばす「使える」英語力

目標は、英語を使って自分の意見を的確に表現し、相手を説得できる力を養うこと。2年次から履修できる「英語表現演習」では、ネイティブ・スピーカーを中心とする講師陣により、小規模クラスで会話力と作文力を伸ばします。また、実用翻訳や文芸翻訳、字幕翻訳の専門家により、本格的な翻訳が学べる授業もあります。

独自の留学プログラム(SAプログラム)で異文化体験

密度の高い英語の授業と異文化体験によって、世界に通用するコミュニケーション力と適応力を身に付けるSA(Study Abroad)プログラム。毎年20~30人の学生が、海外で英語漬けの生活に挑戦しています。(P.8参照)

文学・文化・言語・教育を文・理の視点から学ぶ

実践的な英語力を得られるだけでなく、人文学的な観点から英米圏の文化・文学を学ぶことや、社会・自然科学的な観点から言語や教育を学ぶこともできます。文系・理系にまたがる学問領域に触れることで、幅広い視野を培います。3年次からは大学院の授業を履修できる制度もあり、1年次から大学院まで、体系的かつ個々の学生の興味や必要に沿った学びが可能です。

英文学科の柱となる3分野

- 文学系** イギリス文学、アメリカ文学、そして戯曲や演劇。英語圏のさまざまな文学作品を対象に、批評と解釈の多様性を探ります。
- 英語学系** 5世紀半ばに生まれて以来、進化し続ける英語。その歴史や成り立ち、特徴について、さまざまな観点から解き明かしていきます。
- 言語学系** 英語のみならず日本語をはじめとした言語一般も含め、身近な言語の分析からパソコン実習にまでまたがって研究を行います。

注目の授業

文学系・英語学系・言語学系の3分野からなる本学科。教授陣の専門分野も多岐にわたり、好奇心に応じて柔軟に学べます。

英語表現演習 (Speaking)

グローバル社会において英語はコミュニケーションツールの一つです。本授業では、発表やディスカッションを通して、英語で自己表現できるコミュニケーション力を養います。テーマに基づいて情報収集を行い、自分の考えや意見をまとめ、説得力のある英語で発表できるように学習します。

ブライアン・ウィスナー 准教授



学生の声

英語を使ったプレゼンテーションや発表で実践的な英語力が身に付きます(2年女子)／構成などスピーキングをする上で必要な知識も学べます。また、学生間で話すことも多く、他の学年ともたくさん交流できるのも魅力です(4年女子)

応用言語学

子どもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのかを学びます。そして習得理論はどのようにその違い、および類似点を説明してきたのか、理論の移り変わり、さまざまな研究手法を学び考える授業です。

川崎 貴子 教授



学生の声

言語習得が、思ったより科学的で分野横断的な学問であることに、驚きました(4年男子)／将来は教員を目指していますが、そこで生かせそうな学びが多くありました(3年男子)／知的好奇心がかき立てられる授業でした(4年女子)

文学研究方法論

文学作品(小説・演劇・映画など)を解釈するための基本的な方法論を習得。さまざまな批評理論を活用しながら、特定の文学作品について自分なりの解釈を創り出し、かつ、その解釈が主観的ではあっても誤読ではないことを論証するまでの一連のプロセスを学習します。

丹治 愛 教授



学生の声

一つの作品について、1年間を通して深く学んでいきます(2年女子)／文学作品にはさまざまな読み取り方があることを実感として学べます(2年女子)／英米文学に対する解釈の方法を学び、作品への理解を深めます(3年男子)

ゼミでの学び

広い視野や深い洞察力を養うゼミ学習。さらに深く学びたい学生には、学部生も単位認定される大学院のゼミも設けています。



英語学演習(2)

「ことば」って不思議。たった一言で、人を傷つけることもできれば、癒やすこともできます。ゼミのテーマは「コミュニケーション」。「話されたことば」と「伝わったメッセージ」のズレを、言語学的に研究しています。

椎名 美智 教授

学生の声

先生が明るく、いつも楽しい授業なので、週一度のゼミに行くのが楽しみです。先生は学生と関わる機会を大切にしてくださいませし、学生同士もとても仲が良いです。学生時代の思い出をつくりながら、同じ分野に興味を持ち、研究している仲間とともに成長していけるのは、椎名ゼミの魅力だと思います。

英文学科 4年 塚本 亜美さん
東京都私立品川女子学院高等学校出身



英米文学演習(9)

毎年テーマを設定して短編小説を読みながら、アメリカの文化や文学について考えていくゼミです。これまでに扱ったテーマは「子ども」「音楽」「都市」「幽霊」など。翻訳と原文で読んだ場合の印象の違いなども考えます。

利根川 真紀 教授

学生の声

私自身、本を読むのがあまり得意ではありませんでしたが、ゼミでは本に触れる機会がとて多く、本を読むのが苦にならなくなり、むしろ好きになりました。また、読んできた作品に対する他のゼミ生の意見を聞き、新たな発見や自分の考えとの一致・不一致など、考えを共有できるのも面白いです。

英文学科 4年 大平 雄介さん
香川県私立香川誠徳高等学校出身

卒業論文 テーマ例

「ウィキッド」におけるジェンダーと家族／イアン・マキューアン「贖罪」にみる第二次世界大戦時の女性像／「リアリティ」を求めて—The Namesake における欠落の感覚—／日英分裂文：構造分析と焦点制約／ドリトル先生シリーズにおけるジョン・ドリトルの中立性について／平仮名の可愛さ効果と購買意欲の関係／音声発話中のポーズが聞き手の聴解度に与える影響／過剰なポライトネスと関係性の交渉／Code Switching in SLA／オスカー・ワイルドの「ドリアン・グレイの肖像」における芸術と道徳の相克／「若きウェルテルの悩み」における「絶対的なもの」を求める欲求について

英文学科では「グローバル体験公募推薦入試」「国際バカロレア利用自己推薦入試」も実施しています。詳しくは大学案内／入学センターHPをご覧ください。

英文学科オリジナルサイト <http://eibun.ws.hosei.ac.jp/>

史学科



Department of History

歴史を見る眼と
今とこれからの見る眼、
その両方を開く。

多角的な研究と深い理解から、
自分のルーツ、そして今とこれからの考える。
歴史学とは、「考える」学問。
歴史から「新しい眼」を見つけ出す楽しさを、
体験してみませんか？

学びのステップ

1年次 日本史・東洋史・西洋史の概説科目に接して歴史学の輪郭を学ぶ。

2年次 日本史・東洋史・西洋史の各専攻のゼミに所属し、専門的な学びをスタート。

3年次 2年次に選択したゼミを引き続き履修。さらに専門性を深める。

4年次 それまでに得た幅広い知識と調査能力を総動員して、卒業論文を執筆。

史学科でできること

3専攻に分かれて学ぶコース制

1年次では「日本史」「東洋史」「西洋史」の全体像を幅広く学び、2年次からは、その3専攻のいずれかに所属します。また、所属の専攻で専門的な学びを深めながらも、他専攻の科目も履修可能。専攻を超えた学びにより、物事を多角的に捉え、客観視する力を養います。

史学科を象徴する「日・東・西(にっとうせい)」

日本史	考古・古代・中世・近世・近代・現代のすべての時代ごとに専門の教員を配置。北方史や南方史といった日本列島周辺地域の歴史に取り組む授業もあります。
東洋史	アジアを文献史料と物質資料、両方から学べるのが大きな特徴です。中国の研究機関との交流もっており、現地を訪れる機会もあります。
西洋史	さまざまな地域と時代を学べますが、中でも西洋文明の源泉である古代ギリシャ・ローマについては、より充実した学習が期待できます。

実物の史資料に接する実践的な学び

考古学および古代史から現代史までを学ぶ日本史分野では遺物や古文書を、東洋史・西洋史の両分野では外国語の文献をテキストとして学ぶ科目もあります。時には遺物や古文書などの貴重な実物に接したり、学外施設を利用したりして学ぶこともあります。

各種データベースを活用し学習を効率化

飛躍的に増えてきたデジタルテキストや各種のデータベースを授業・学習に活用。また、学生自ら史資料や文献目録のデータベース化に取り組み、歴史学の新たな発展に寄与するとともに、学習の効率化と深化に役立っています。

注目の授業 歴史を多角的に研究し、過去の人間の営みを学ぶことで、現在と未来を考察する。そんな力を育む、多種多様な専門科目を用意しています。

東洋考古・美術史

東アジアの文化財の保護を主題とし、王朝の中心である都に纏わる遺跡や文物などを紹介しています。中国三千年王朝の9割が都を置いた洛陽、西安、北京は、まさしく古代東アジアの中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源も考えていきます。

塩沢 裕仁 教授



学生の声

実物に触れるので、非常に学び甲斐があります(3年女子)／史学科の学生全員が受講していると思うくらい、受講者が多い(3年男子)／中国の発掘現場の写真を見られるなど、大学ならではの学術的な授業だと思う(2年男子)

日本近世史科学I・II

本授業では、くずし字で書かれた江戸時代の古文書を読解します。未だ誰も読んだことのない古文書が、日本には数多く存在しています。これを専用の辞典を用いて一字ずつ読み進めていく。教科書にはない、ナマの歴史がここにあります。

松本 剣志郎 助教



学生の声

博物館で展示されている史料が読めるようになりました(3年男子)／くずし方によってまったく形の異なる字が面白い(2年男子)／癖のある文字や書き間違いなどから、江戸時代人を身近に感じることが出来ます(3年女子)

西洋史外書講読I

英語の論説文から著者の主張を正確に読み取る能力は、西洋史で卒業論文を書くためだけでなく、グローバル化時代の社会人にとっても必要なものです。この授業では古代ローマに関連する英語論文を精読し、速読能力の基礎でもある正確な英文読解力を養います。

後藤 篤子 教授



学生の声

丁寧な訳しと精読を経て、文献の内容を理解できた時には、達成感が大きいです(2年女子)／個々の理解度に合わせたアドバイスをもらえ、読解スキルが向上(3年男子)／難しい英語の構文も丁寧に解説してくれ理解しやすい(3年女子)

ゼミでの学び 日本史分野に6つ、東洋史分野に2つ、西洋史分野に3つ、合計11のゼミを開設。ゼミ生は公私にわたって交流を深め、共に学び合います。



日本中世史演習

鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』を講読したり、研究発表をしたりします。いずれの場合も、自分で論点を設定して考察し、何らかの見解を提示してもらいます。また、課外授業として、史跡や博物館を訪ねる機会を設けます。

大塚 紀弘 専任講師

学生の声

高校の頃から鎌倉時代の政治や史料に興味があり、このゼミを選びました。史料を多く読むので、古文書を読む力が非常によく身に付きました。また、史料の論点を自ら考え、それについてかなり深く調べていきます。そういった中で、さまざまな文献史料に触れることができるのも魅力の一つです。

史学科 4年 大江 悠太さん
北海道私立札幌日本大学高等学校出身



西洋近現代史演習

西洋近現代史研究は、現代を見聞し感知することを出発点とし、過去の人間の活動を探究、研究し、未来を見通す学問です。現代社会に知のアンテナを張り、過去の人間活動に共感することができる人を求めます。

加納 格 教授

学生の声

英語の文献を訳す時に自分の英語力の低下に驚きました。受験勉強をしていた頃には分かっていた英単語の意味も忘れていて、少し苦労しましたが、徐々に長い英文を訳すことにも慣れ、歴史の文献ならではの特殊な英単語も覚えられました。また、ゼミを通じて物事を考える力も得ました。

史学科 4年 宇野 温美さん
埼玉県立熊谷女子高等学校出身

卒業論文 テーマ例

弥生時代中期の長野盆地における「周溝をもつ建物」に関する一考察／古代宮都の宮城十二門配置復元／都市鎌倉と鎌倉幕府／中世における女性の地位／江戸時代の漫画・戯画文化―葛飾北斎と北斎漫画―／林内閣佐藤尚武外相の外交構想／「右翼政治家」中原謹司試験／孔子廟からみる社会と儀礼の一考察／總足を通して考える清朝とヴィクトリア朝における国民意識の変容／古代ギリシアにおける死生観／政治家キケロについて／ゴシック大聖堂建築家の職能と社会的地位についての一考察／動員を目的とした大衆操作―第一次世界大戦期のアメリカに焦点をあてて―

史学科では、少林寺や龍門石窟などの中国の世界文化遺産研究所と学術交流協定を結んでいます。

史学科ページ <http://www.hosei.ac.jp/bungaku/gakka/history/>

地理学科



Department of Geography

オールラウンドな学問「地理学」で
多角的な物の見方と考え方を養う。

人文科学、社会科学、自然科学
文系・理系の枠すら超え、
広くまたがる総合的な科学。
その学びの先には、
広い視野と柔軟な思考を身に付けた
一人の人間としての成長があります。

学びのステップ

1年次 大学での学びの基礎を
習得しながら、
専門科目も履修。

2年次 ゼミに所属し、
調査方法やデータ分析技
などを学ぶ。

3年次 多様な選択科目を履修し
より高い専門性を
身に付ける。

4年次 自ら調査、分析し、
討論を行いながら
卒業論文をまとめる。

地理学科でできること

フィールドワークを重視した体感的学び

地理学科の大きな特色は、現地研究(フィールドワーク)という実習科目にあります。教員と学生が数日間フィールドに出かけ寝食を共にし、地域調査とディスカッションを通して地域の実態への認識を深めます。まさに「百聞は一見にしかず」。テーマや地域を実際に観察・調査することで多くの知見を得ることができます。



原則として2泊3日の日程で各地域に出かけ、テーマごとに観察・計測・聞き取り・見学などさまざまな形で研修する現地研究(フィールドワーク)。現地研究の開催は年間十数回。地理学科の学生は卒業までに2つ以上の現地研究を必ず履修します。

地理学を総合的に学べる多様な科目群

「地理学と哲学は諸科学の母」という表現がありますが、現在の諸科学はこの2つの学問から分化・派生して形成されてきたものです。非常に幅広い領域を対象とする地理学を総合的に学ぶために、本学科では「文化・歴史系」「社会・経済系」「自然・環境系」の3群からなる多様な科目を配置しています。

学部+大学院を5年で修了できる独自制度

強い向学心を持ち、学問を究めたいと考えている学生のために【学部+大学院修士課程】を5年間で修了できる制度を導入。学部において優秀な成績を修めることを前提に、学部課程を3年で終え、そのまま大学院へ進学できます。

注目の授業

地理学の専門科目は1年生から始まります。講義と並行して実習や実験もあり、インドアワークやフィールドワークの技術を学びます。

世界地誌(4)

この授業ではアジア地域の地誌を解説します。近年は日本と歴史的、地理的に最も関係の深い韓国を対象にしています。韓国の歴史、日本との関わり、現代韓国の政治、経済、社会状況を知ることは、なによりも日本の今を知ることになると考えています。

伊藤 達也 教授



学生の声

韓国についてさまざまなデータをもとに多角的視点で見るため、新しい発見があり面白い(3年男子) / 一部のメディアとは違って公平、現実的な授業です(3年男子) / 良い意味で自分の価値観に変化がもたらされる(3年女子)

海洋・陸水学及び実験I・II

地球上に存在するさまざまな「水」について理解を深め、特に、降水・河川・湖沼・地下水・雪氷・海洋など、姿を変えながら循環する水の性質と、それに伴い移動する物質や人間活動の影響などについて学習します。また、水に関するさまざまな社会問題も扱います。

小寺 浩二 准教授



学生の声

講義を聞くだけでなく、実験や実習もあるので楽しく勉強できる(2年女子) / 写真や資料などが盛りだくさんで、分かりやすい(2年男子) / 実際に水質の調査や分析を行う機会があり、とても有意義で役に立ちました(3年女子)

社会経済地理学

授業では山村問題を対象としています。山村に見いだされる問題点を通して、日本社会の仕組みの一端を垣間見ることができるようになりたいと思っています。決して「流行る」テーマではありませんが……。

片岡 義晴 准教授



学生の声

受講者は多いですが、適度な緊張感を持って臨めます(2年女子) / 後々まで役立つようなレジュメが配布され、ためになる(3年女子) / 物事について世間一般とは違う説明があるので興味深い(2年男子) / 扱う内容は難しいが理解しやすい(2年男子)

ゼミでの学び

ゼミは大きく「人文」「自然」に分かれ、2年次から4年次まで履修可能。幅広い選択肢からやりたいことに合わせて選べます。

人文地理学演習(2)

ゼミは学生が主体の学びの場。書物や論文を批判的に読み、互いに発表し合い議論します。本ゼミでは、人文地理学に関わる現代的な問題を取り上げ、活発に意見を述べ合います。そうした営みを通じてこそ、真のよき学友が得られるからです。

中俣 均 教授

学生の声

2~4年生が合同で行うため、ゼミ生の数が50人に及び、多くの人の意見を聞くことができます。中には自分では考えもつかない視点の意見もあり、そのような意見を聞いて自分の中でさらに考えを深めることができます。以前より広い視野を持てるようになったのは、ゼミで経験している議論の大きな成果です。

地理学科 4年 大橋 浩平さん
富山県立砺波高等学校出身



自然地理学演習(3)

本ゼミは、専門書や研究論文の精読とプレゼンテーション、卒論構想の紹介、およびそれらに関する討論を中心に、学生主体で運営されています。年2回ゼミ合宿を行い、卒論の中間報告や地形学に関する巡見などを行っています。

前杵 英明 教授

学生の声

地震や海岸浸食など、多くの学生にとって関心の高いテーマを中心に扱っています。グループワークやディスカッション、プレゼンテーションの機会が多いので、人に伝える力が自然と身に付いていきます。まだ答えのない問題に対して、自ら調査し自分なりの答えを見つけ出す。そんなチャレンジが楽しいです。

地理学科 3年 張 雨茜さん
高知県私立明德義塾高等学校出身



卒業論文 テーマ例

東京首都圏における春・秋季の気温日較差とヒートアイランド現象の対応 / 地域文化行事における現代的伝承形態に関する一考察—東京都神津島村「二十五日様」行事を事例として— / 古地図からみた小田原城下町の地域構造の変化 / 地方自治体の観光戦略と観光イメージ—京都府宇治市を事例として— / 動物の妖怪現象と地理的特徴—近世の世間話を事例として— / 沖縄県南部におけるさとうきび生産の展開—糸満市喜屋武地区を事例として— / 荒川における流域環境変化と水質特性 / 地理的なターゲティングによる広告活動の効率化—地方新聞広告と全国紙地域面広告を事例として—

地理学科では「自己推薦入試」も実施しています。詳しくは大学案内 / 入学センターHPをご覧ください。

地理学科オリジナルサイト <http://www.hosei.ac.jp/geogr/geo-net/>

心理学科



Department of Psychology

こころのメカニズムを知り
自分や社会のために
還元していく。

目に見えず、触れることもできない。
でも、確かに存在している「こころ」について
客観的に解き明かしていく。
自分、そしてすべての人と社会が
より良く生きるためのヒントが、
そこに存在しているから。

学びのステップ

1年次

心理学のさまざまな領域について
幅広く学び
専門的な学びに備える。

2年次

ゼミ形式の授業で
専門的な論文の読解や
実験計画法などを学ぶ。

3年次

自分の取り組みたい
テーマを見つけ
専門性を高める。

4年次

2~3年次の成果を
踏まえて卒業研究に取り組む。

心理学科でできること

「認知系」「発達系」の二本柱で構成

人が外界を認識し、適切に行動するための仕組みを明らかにする「認知系」分野。そして、「こころ」の発達過程を探究することで、自分自身を理解することにつながる「発達系」分野。これら二つの領域をバランス良く学ぶことで、人間の心を科学的・客観的に見つけ、対応する能力を身に付けます。また、認知科学の一領域として、脳科学や言語学、哲学、情報科学と連携を取れるようなカリキュラムも実現しています。

少人数での実験・実習を重視

心理学では多くの分野で実験・調査・観察・検査・面接などの科学的な方法が用いられ、客観的なデータから結論を論理的に導き出すことが求められます。本学科では、実験や実習、フィールドワークなど少人数で行う実証的な授業形態を重視。脳波計やNIRS、ポリグラフといった機器も使いながら、学際的な学びを行っています。

あらゆる職業に応用できる学び

世の中のほとんどの職業は何らかの形で人と関わっています。人間の心を科学的に解明する手法は、あらゆる職業に応用できる実践的な道具となります。例えば、こうした能力をベースに、一般企業への就職はもちろん、心理学の能力を直接生かせる教育相談機関や福祉機関、司法・矯正機関などの公務員を目指すことも奨励しています。大学院に進学し、研究職や心理学に関わる資格を目指す人も少なくありません。

大学院への進学という選択肢

より心理学を追究したい人は、大学院への進学も念頭に、「学校心理士」や「臨床心理士」などの資格取得への道も開け、こころのスペシャリストとして多様な進路を選択できます。

注目の授業

「認知系科目群」と「発達系科目群」を二本柱に、心理学の基礎から応用まで、最新の成果を織り込んだ高度な授業を行っています。

スポーツ心理学特講

この授業では、運動・スポーツ場面において心理学的な支援を実践できるようになることを目指します。講義形式で情報を伝えるだけでなく、リラクゼーションの実習を行ったり、グループで対話を行ったりしながら、授業を展開しています。

荒井 弘和 准教授



学生の声

授業で学んだことを生かし、習慣的に水泳をするようになりました(3年男子) / 学んでいくうちに、スポーツ心理学を日常生活にも生かせることが分かりました(3年女子) / スポーツ心理学に関心を持てるようになった(2年男子)

発達心理学

「鏡に映る顔が自分の顔と分かるのはいつから?」「なぜ、反抗期ってあるの?」「人はどうして悩むの?」など、発達心理学に関わる不思議はいっぱいあります。明らかにされてきたことを理解し、いまだ未知のことをグループワークや魅力的な教材をもとにして考えます。

渡辺 弥生 教授



学生の声

人の感情や思考がどのように発達するかが分かって面白い(3年男子) / 道徳性についてグループで話し合いをする、他人と自分の考えが違っていて驚きました(3年女子) / 将来子どもを持つのが楽しみになりました(3年女子)

学習心理学

心理学で研究している「学習」は、学校での勉強のことだけではなく、あらゆる知識や技能の獲得に関わる、身近な現象です。主に動機づけ(やる気)や記憶の仕組みを学ぶことで、これまでの自分の学習を見直し、今後の人生に役立てる視点を持つことができます。

藤田 哲也 教授



学生の声

実生活に役立つ内容だった(4年男子) / ためになった!! 自分の学習方法を見直すいい機会(3年男子) / 授業の内容を実際の授業にも応用してとても参考になった(3年女子) / 理論を実践していたから、理解が深まった(2年男子)

ゼミでの学び

発達臨床や犯罪、スポーツ・健康、産業組織まで、多彩なゼミを用意。研究を究めると同時に、ソーシャルスキルも磨きます。

研究法(生理心理)

脳の働きを脳波や眼球運動から、そして身体へのストレス反応を心電図から測定します。さまざまな機器で測定した客観的な生理心理指標と、自覚的な心理測定指標を見比べながら、脳や身体で生じた「なぜ?」「どうして?」を考えていきます。

高橋 敏治 教授

学生の声

卒業論文の構成について発表した時、ほかのゼミ生や院生からいろいろなアドバイスをもらい、自分一人では考えつかなかったような気づきを得ることができました。また、分析・考察などをグループで取り組むことによりゼミ生との仲が深まり、お互いの研究についても相談し合えるいい仲間を得られました。

心理学科 4年 伊藤 規佐さん
静岡県私立西遠女子学園高等学校出身



研究法(知覚認知)

写真の逆さ眼鏡をかけると、目の前が上下逆さに見えます。これは手作り、心理学の実験では道具を自作する楽しみもあります。今年のゼミ生で、自分の手のそばにマネキンの手を置く道具を作り、自分の手の位置感覚の変化を試している学生がいます。

吉村 浩一 教授

学生の声

ゼミ生がそれぞれに異なる研究テーマに取り組んでいることは、自分の研究に大きな刺激になります。しかし、それだけではありません。聞いたことのない専門用語が飛び交う中で、その話を理解して意見を述べる、という実践的なトレーニングこそが、このゼミの最も有意義な魅力であると思います。

心理学科 4年 神園 裕さん
広島県立廿日市高等学校出身



卒業論文 テーマ例

リラックス音楽の聴取の有無が精神的疲労に与える効果 / シャブしゃぶ店における注文行動に及ぼすPOP広告と試飲の効果 / 記憶痕跡の強さが経過時間判断に与える影響 / 感情推測手がかりの発達とソーシャルスキルの関連 / 日本における大量殺人犯人の属性の推定 / 女性大学生スポーツ競技者における摂食行動とスポーツ達成志向性との関連 / インターネット上の口コミによる投稿内容の特徴抽出 / 言語音の音象徴性: 発話単語の言語音と曲線性・明度の一致性の検討 / 高校生の陸上競技伝言チームを対象としたチームビルディングの効果の検討

心理学科では大学生主体のピアサポートグループがあり、教員を交えて楽しい企画を立案し、運営しています。

心理学科オリジナルサイト <http://www.hosei-shinri.jp/psychology/>

教員メッセージ / 研究・ゼミテーマ



哲学科

古代ギリシア系哲学・思想 奥田 和夫 教授 [研究・ゼミテーマ] 古代ギリシア哲学、ソクラテス・プラトン哲学の基礎研究	英米系哲学・思想 中釜 浩一 教授 [研究・ゼミテーマ] 科学哲学、言語科学、説明・論証の理論、論理的意味論	フランス系哲学・思想 安孫子 信 教授 [研究・ゼミテーマ] 研究・ゼミテーマ フランス哲学、フランス19世紀思想、アンリ・ベルクソン研究	フランス系哲学・思想 酒井 健 教授 [研究・ゼミテーマ] パライプ研究、芸術論、西欧美術史、キリスト教思想史	比較思想・文化 D. ハイデンライヒ 教授 [研究・ゼミテーマ] 哲学と文学、映画と文化についての比較研究
--	---	--	--	--

哲学科

ドイツ系哲学・思想 牧野 英二 教授 [研究・ゼミテーマ] 近現代哲学、情念豊かな合理性及び持続可能性の哲学の構築	ドイツ系哲学・思想 笠原 賢介 教授 [研究・ゼミテーマ] ドイツ現代思想・哲学、18世紀ドイツ思想	ドイツ系哲学・思想 山口 誠一 教授 [研究・ゼミテーマ] 哲学的文明論、ヘーゲル／ニーチェの再生	数理論理学 安東 祐希 教授 [研究・ゼミテーマ] 古典論理の証明論、証明図の書き換え手続き	倫理学 星野 勉 教授 [研究・ゼミテーマ] 倫理学研究、とりわけ自由と行為に関する研究
--	---	--	---	---

日本文学

倫理学 菅沢 龍文 教授 [研究・ゼミテーマ] 西洋近代哲学、カント哲学を研究、倫理や法の哲学的考察	法哲学 内藤 淳 准教授 [研究・ゼミテーマ] 人間の根本や憲法の目的の研究、人間性の進化的研究	上代文学 坂本 勝 教授 [研究・ゼミテーマ] 「古事記」「万葉集」	中古文学 加藤 昌嘉 教授 [研究・ゼミテーマ] 「源氏物語」	中世文学 小秋元 段 教授 [研究・ゼミテーマ] 軍記物語・説話・お伽草子
---	---	---	--	--

日本文学

中世文学 阿部 真弓 教授 [研究・ゼミテーマ] 日記文学・和歌・物語	近世文学 小林 ふみ子 教授 [研究・ゼミテーマ] 江戸の文学	能と狂言 伊海 孝充 教授 [研究・ゼミテーマ] 能楽	音楽史 スティーヴン・ネルソン 教授 [研究・ゼミテーマ] 歌謡・雑奏・平家語り	近現代文学 中丸 宣明 教授 [研究・ゼミテーマ] 近代文学
--	--	--	---	---

日本文学

近現代文学 藤村 耕治 教授 [研究・ゼミテーマ] 昭和から現代文学の作家・作品	中国文学 遠藤 星希 専任講師 [研究・ゼミテーマ] 唐代文学(唐詩・伝奇)・幕末明治の漢詩	中国文学 千野 明日香 教授 [研究・ゼミテーマ] 中国の昔話・伝説	言語学 間宮 厚司 教授 [研究・ゼミテーマ] 古代理論語・日本語の歴史	言語学 尾谷 昌則 教授 [研究・ゼミテーマ] 現代日本語文法・若者言葉
---	---	---	---	---

日本文学

文芸創作 中沢 けい 教授 [研究・ゼミテーマ] 文学創作研究	文芸創作 田中 和生 教授 [研究・ゼミテーマ] 現代文学・文芸評論	英文学科 結城 英雄 教授 [研究・ゼミテーマ] 20世紀イギリス小説	イギリス文学 丹治 愛 教授 [研究・ゼミテーマ] イギリス小説・映画	イギリス文学 山崎 暁子 准教授 [研究・ゼミテーマ] イギリス児童文学
--	---	--	--	---

英文学科

アメリカ文学 宮川 雅 教授 [研究・ゼミテーマ] ロマン主義文学、リアリズム	アメリカ文学 利根川 真紀 教授 [研究・ゼミテーマ] 社会・人権・ジェンダー	アメリカ文学 小林 久美子 准教授 [研究・ゼミテーマ] モダニズム文学	アメリカ文学 小島 尚人 助教 [研究・ゼミテーマ] 米国家リズム小説	言語学 石川 潔 教授 [研究・ゼミテーマ] 心理言語学・理論言語学
--	--	---	--	---

英文学科 言語学 川崎 貴子 教授 [研究・ゼミテーマ] 音韻論・第二言語習得	英語教育 ブライアン・ウィスナー 准教授 [研究・ゼミテーマ] 第二言語習得・英語教育学	英語学 椎名 美智 教授 [研究・ゼミテーマ] 文体論、社会言語学	英語学 大沢 ふうよ 教授 [研究・ゼミテーマ] 英語の統語構造の変化	比較文化 韓 沛君 助教 [研究・ゼミテーマ] 比較文化論、移民研究、国際関係学
---	---	--	--	---

英文学科

比較文学・ドイツ文学 日中 鎮朗 教授 [研究・ゼミテーマ] 独逸学、比較文学・芸術、文学理論	比較文学・ドイツ文学 山下 敦 教授 [研究・ゼミテーマ] ドイツ語圏文学・芸術	史学科 日本史分野：考古学 小倉 淳一 准教授 [研究・ゼミテーマ] 日本考古学、特に東日本の弥生時代社会の研究	日本史分野：古代史 小口 雅史 教授 [研究・ゼミテーマ] 日本古代社会経済史、古代・中世北方史	日本史分野：中世史 大塚 紀弘 専任講師 [研究・ゼミテーマ] 日中交流および仏教に関する研究
--	---	--	---	--

史学科

日本史分野：近世史 澤登 寛聡 教授 [研究・ゼミテーマ] 祭と一揆、江戸絵巻物・富士信仰・日光・江戸近郊の地域史研究	日本史分野：近世史 松本 剣志郎 助教 [研究・ゼミテーマ] 日本近世都市論、江戸の空間と社会	日本史分野：近代史 長井 純子 教授 [研究・ゼミテーマ] 日本近現代政治史、明治時代～戦後の政治指導	東洋史分野：物質資料学 塩沢 裕仁 教授 [研究・ゼミテーマ] 漢・魏晉南北朝・隋唐の都城考古学	東洋史分野：文献史料学 齋藤 勝 准教授 [研究・ゼミテーマ] 唐代の社会・民族・文化の研究
--	--	--	---	---

史学科

西洋史分野：古代史 中村 純 教授 [研究・ゼミテーマ] 古典期アテナイの政治と社会	西洋史分野：古代・初期中世史 後藤 篤子 教授 [研究・ゼミテーマ] ローマ帝政期および初期中世の歴史と社会	西洋史分野：ロシア地域史研究 加納 格 教授 [研究・ゼミテーマ] ロシア近現代史、ことロシアの民主化プロセス	文化地理学・社会地理学 中俣 均 教授 [研究・ゼミテーマ] 文化景観論・「島」の地理学	分析化学 中島 弘一 教授 [研究・ゼミテーマ] 物質による光吸収に関する研究
---	---	--	---	--

地理学科

原子核物理学 吉田 智 教授 [研究・ゼミテーマ] 宇宙における元素合成の研究	歴史地理学 米家 志乃布 教授 [研究・ゼミテーマ] 北方地域の地図史・歴史と観光	環境経済地理学 伊藤 達也 教授 [研究・ゼミテーマ] 環境問題、地域社会問題	変動地形学・第四紀学 前奈 英明 教授 [研究・ゼミテーマ] 地形による地殻変動・環境変動	農業地理学 片岡 義晴 准教授 [研究・ゼミテーマ] 農業問題・農村問題
--	--	--	--	---

地理学科

海洋陸水学・水文学・GIS 小寺 浩二 准教授 [研究・ゼミテーマ] 地球環境・身近な水環境問題	都市地理学 小原 文明 准教授 [研究・ゼミテーマ] 都市の形成と変容(開発、所有)	気候学・生気象学 山口 隆子 准教授 [研究・ゼミテーマ] ヒートアイランドと都市緑化	地形学・GIS 羽佐田 敏大 助教 [研究・ゼミテーマ] 流域・沿岸部の地形形成	心理学 高橋 敏治 教授 [研究・ゼミテーマ] 睡眠科学、精神保健学
---	---	--	---	---

心理学

知覚心理学・認知心理学 吉村 浩一 教授 [研究・ゼミテーマ] 知覚・運動・アートの科学	発達心理学・発達臨床心理学 渡辺 弥生 教授 [研究・ゼミテーマ] 社会性や感情の発達、学校危機予防	言語心理学・教育心理学 福田 由紀 教授 [研究・ゼミテーマ] 言語力メカニズムと向上	行動分析学 島宗 理 教授 [研究・ゼミテーマ] 組織行動マネジメント・学校心理学	犯罪心理学・社会心理学 越智 啓太 教授 [研究・ゼミテーマ] 犯罪捜査への心理学の応用
---	---	--	--	---

心理学

認知心理学・教育心理学 藤田 哲也 教授 [研究・ゼミテーマ] 人間の記憶・動機づけ	言語学・認知科学 田嶋 圭一 教授 [研究・ゼミテーマ] 音・音楽・言語の科学	スポーツ心理学 荒井 弘和 准教授 [研究・ゼミテーマ] スポーツ選手に対する心理サポート	運動生理学・生理心理学 林 容市 専任講師 [研究・ゼミテーマ] 身体活動時の生理応答と感覚・知覚
---	--	--	--